

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	高木（西田） かおり 【生活工学共同専攻 平成28年度生】	
論文題目	雨水の家庭用水利用の有効性と住民の受容性	<p>本論文は、雨水の家庭用水利用について水量および水質の観点からその可能性を評価し、さらに住民の受容性の状況と影響因子について検討したものである。家庭用水の用途毎に必要な水量および水質を文献調査および現地調査から収集し、かつ降水量、屋根面積等のデータも併せて分布量として扱い、確率論的に利用可能性を推定した。また受容性の面では、スリランカ南部の Galle 県において現地での聞き取り調査を行ない現状を把握し、かつ個別に雨水利用について量および質的な情報を与えることによる受容性の変容について分析することで、変容を促す因子の抽出を行っている。これらの研究は単に独自の理論的検討を進めただけでなく社会科学的な要素として住民の雨水に関する意識調査を加えている点で実用的な面も備えた研究論文であると評価されると考えている。</p> <p>平成30年12月20日、平成31年1月9日、同年1月16日に審査会を行い、論文内容については口頭審査を受けるに十分なものであるとの評価がなされた。併せて論文内容における不備や論文構成に関する修正が求められ、申請者はそれらの指摘事項に関して修正を行った。</p> <p>平成31年1月21日に開催された第4回審査会で、申請者によって本論文の口頭発表が行われ、研究の目的や意義、各実験内容についての確認、および得られた成果や方法論の提言に関しての質疑応答を行うとともに、学力の確認を行った。結果として問題なしと判定された。</p> <p>これらの成果をふまえて、平成31年2月6日に公开发表、並びに最終審査会を開催した。その際、発表内容および質疑応答から、本人の研究内容に対する理解、研究成果の解釈などは適切であり、最終試験に合格するに相応しい内容であると確認された。</p> <p>以上の結果から、本審査委員会は本論文が人間文化創成科学研究科の博士（工学）（Ph. D. in Environmental Engineering）に相応しいと判定した。</p>
審査委員	(主査) 教授 大瀧 雅寛	
	教授 吉田 哲也 (奈良女子大学)	
	教授 太田 裕治	
	准教授 長澤 夏子	
	助教 中久保 豊彦	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている <input checked="" type="radio"/>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	